

## 8.11道民フォーラム・アピール（案）

政権交代から3年――。

新しい何かが始まる、日本が変わる、という期待の多くが幻滅に代わってしまいました。与野党ともに政局中心で国民不在の政治に、政党・政治不信は極限に達しつつあります。そしてこの国民の不満やいらだちを煽り立て自分の人気取りに利用する政治家もいます。

私たちは、いきすぎた競争と自助努力の強調の中で、お互いの信頼や助け合いが薄れ、貧困と格差が拡大していく生きづらい社会からの転換を、政権交代に託してきました。3.11以降はなおさら、人々の絆の大切さ、支え合う地域のコミュニティや公共サービスの重要性、そして何より、一旦事故が起きれば取り返しのつかない放射能被害をもたらす原発は、できるだけ早くゼロにするしかないことが、誰の目にも明らかになりました。

しかし、多くの国民のこの思いと、現実の政治の動きは大きく隔たっています。

フクシマの事態を前になお、自らの権益のために原発を維持しようとする人々。  
自分たちの資産や所得への課税強化は拒否して、消費増税だけを進めようとする人々。  
貧困と格差の拡大を“自己責任”と切り捨て、雇用や社会保障を削ろうとする人々。  
地域や食・環境・一次産業を軽視して、何でも市場競争で調達すればいいと考える人々。  
憲法9条を改正して、「国防軍」が集団的自衛権を行使できるようにともくろむ人々。

――こうした人々による、こうした人々のための政治の復活を、私たちははっきり拒否します。

東日本大震災と福島第一原発事故は、国民の意識に大きな変化をもたらしました。脱原発を求め、首相官邸を包囲する何万もの市民のデモは、今や全国に広がっています。政治が国民の声を踏まえて機能していないことに抗議し、自らの行動で意思表示しています。こうした市民一人ひとりの行動こそが、政権交代の意味を蘇らせ、真の国民主権と民主主義に支えられた日本の社会をつくっていく基盤です。

私たちは、「命を最優先し互いに支え合う社会」「雇用と生活を保障しあう社会」、そして「環境に配慮した持続可能な安心社会」を、日本と北海道につくりたいと考えます。

そのために、政治家だけにまかせるのではなく、一人ひとりの「市民が主役」として政策を語り、運動を交流し、発信していきましょう。

今日のフォーラムをその出発点として、

様々な道民が大きくつながれる“広場（フォーラム）”を育てていきましょう。

希望ある未来は、私たちの意志と行動のその先にあります。

2012年8月11日

『市民が主役』の政治を取り戻す 8.11道民フォーラム